

プラスチックごみ削減のために私たちができること

「プラスチックごみ削減のために私たちができること」という課題に対して、私は「学校にはペットボトル飲料を持ち込まない」ということを提案する。その理由は三つある。

第一に実現性が高いからである。私のクラスではマイボトルを持参している生徒はほぼ半数である。これは他のクラスでも同様だと思われる。マイボトルが普及しているので、学校にペットボトル飲料を持ち込まないという提案は実現性が高いと考えてよい。

第二はマイクロプラスチックによる生態系・海洋汚染がいま深刻化している状況にあるからである。特に廃棄されたプラスチックの一定量が海洋投棄され、マイクロプラスチック化して生態系を脅かしている。ペットボトルは携行性が高い分、廃棄する場所に困ることがあり、ポイ捨てされることも多いという。ポイ捨てされたペットボトルは河川を経て海に漂い、やがて分解されマイクロプラスチック化していく。小動物↓魚類↓人間という食物連鎖の結果、ヒトの体内に蓄積され、健康被害につながることも懸念されている。

第三にプラスチックは大量生産・消費・廃棄の象徴的物質であるからだ。実際、一九五〇年以降の生産総量は約八三億トンで、廃棄総量は約六三億トンに上っている。環境省は、現状のペースでは、二〇五〇年までに一二〇億トン以上のプラスチックが埋め立て・自然投棄され、海中のプラスチックが魚類の量よりも増加するのではないかとしている。こうした現状から見て、私たちにとって身近なペットボトル飲料を学校に持ち込まないという新たなルールは、「プラスチックごみ削減のために私たちができること」という課題に対する意識向上に大いに役立つはずである。

以上のように、プラスチックごみの削減は私たちに課せられた喫緊の課題である。私たちは日常生活の様々な場面でプラスチックごみの削減に努めなければならぬ。ペットボトル飲料を学校に持ち込まないという提案はこの課題に関する第一歩となり得るのである。